

**授業概要**

本講義ではメディアやその文化のありようについて、特に「人形」をキーワードに学びます。ここで言うメディアとは、新聞やテレビやラジオ、インターネットはもちろん、演劇や映画、絵画、写真、小説、漫画、われわれの身体などさまざまなものを指しますが、そこには人形も含まれます（なぜそういえるのかは講義の中で説明します）。

メディアについて基礎的な知識を身につけるだけでなく、人間にとって身近ながら謎の多い人形という存在を通じて、様々なことを問い直すつもりです。たった 15 回の講義ですが、受講者のみなさんを深遠な人形の世界の入口へ、しっかりとエスコートいたします。

**授業計画**

第 1 回	導入	メディア／人形とはなにか	
第 2 回	メディアとしての儀式、祈り	呪いの人形は現代でも有効か	
第 3 回	メディアとしての人形劇①	ロワイヤル・ド・リュクスという巨大人形劇	
第 4 回	メディアとしての人形劇②	人形劇としての『トイ・ストーリー』	
第 5 回	メディアとしてのお化け屋敷	ホーンテッド・マンションと視線の戦略	
第 6 回	メディアとしてのホラー映画①	アメリカンホラーは対岸の火事なのか	
第 7 回	メディアとしてのホラー映画②	Jホラーにはなにが描かれているか	
第 8 回	メディアとしての着ぐるみ	着ぐるみ身体の不しぎな魅力	
第 9 回	メディアとしての人形愛	ぬいぐるみは捨てなければならないのか	
第 10 回	メディアとしてのアイドル①	アイドルはあやつり人形か	
第 11 回	メディアとしてのアイドル②	なぜ初音ミクを応援するのか	
第 12 回	メディアとしての Perfume	Perfume よ、どこへ行く	
第 13 回	メディアとしての子ども向けアニメ①	『クレヨンしんちゃん』と境界について	
第 14 回	メディアとしての子ども向けアニメ②	恐怖映画としての『それいけ！アンパンマン』	
第 15 回	まとめ	これまでのおさらい	
第 16 回		筆記試験	

**到達目標**

われわれと、人形をはじめとしたメディアの密接な関わり合いについて理解を深める。そのことを通じて、様々な文化事象に関心を持ち自ら思考する能力を身につける。

**履修上の注意**

能動的に講義に参加できるもの以外は受講しないこと。なお正当な理由のない遅刻者については、欠席扱いとすることがあるので注意すること。

**予習復習**

下記のテキスト内で講義内容の理解に必要な部分を毎回指示するので、その箇所を必ず読んでから講義に臨むこと。また毎講義後に出す課題や、期末に実施する試験を無事乗り切るためには、担当者が言及した書籍、資料、映像作品等について各自で目を通しておくことが望ましい。

**評価方法**

講義内で提示される課題（50%）と期末試験（50%）にて評価する。

**テキスト**

- 教科書名：『人形メディア学講義』
- 著者名：菊地 浩平
- 出版社名：河出書房新社